ゴム製の彫刻義歯

東京医科大学補綴学教室

中 沢 勇 平 田 幹 男

Historical Sample

An Ancient Type of Rubber-Denture made up by Hands

Isamu Nakazawa & Mikio Hirata

(Tokyo Medical and Dental Univ.)

写真は、昭和32年8月東京・巣鴨の高岩寺（通称とげぬき地蔵）墓地の区画整理の折に発掘されたゴム製彫刻義歯である。

この義歯は現在では無縁となつている尾島家の石碑の下から出た径3尺程の瓶に、3人分の骨とともに納められていたものである。このほかに上下一対の木製全部床義歯と、下顎だけの木製義歯と一緒に発見された。高岩寺は明治23年に下谷・車坂より現在のところに移転しており、その折に3人の骨を一つの瓶に移したことが考えられる。

義歯は全面が非常によく研磨され、鮮かな朱色と黒色のゴムからできていて、極めて精巧につくられている。唇面には左右4本ずつ歯型が彫刻され、臼歯部の咬合面は平坦で頬舌径は狭く、最大部で4mm たらずである。咬耗によつて生じた滑沢な咬合面は、長期間この義歯が用いられていたことを示している。またこの磨耗状態や、義歯の型態から考えて上顎も同様な彫刻義歯であつたものと推定される。X線像では前歯部唇面の黒色部の透過度がよく、朱色のところとの境界がはつきりとみえる。義歯の重量は6.4g、最大幅53mm、最大長29mm で全体に小じんまりとしており、御歯黒の歯を模倣している点からみても女性の義歯であることは確かである。

さて、本義歯がとくにわれわれの興味を引くのは、明治初期になつて西欧より輸入されたゴムを材質として用い、江戸時代より伝わるわが国独特の木製義歯の技法によつて製作された彫刻義歯であるということである。古来からの木製義歯は、明治になつて西洋式の義歯に次第に駆逐されたが、明治24—5年まではつくられていた。その間に義歯の製作者の中には、木製義歯と西洋義歯との両方を製作していたものも知られているが、本義歯は木製義歯と西洋のゴム床義歯との移行型を示したものであるといえよう。

従来このような義歯の報告、殊に写真による報告が見られないので、先人のはらつた努力の跡を忍びながらあえてここに掲載した次第である。